

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-------------------------|------------|--|
| 事業所番号 | 0270800337 | | |
| 法人名 | バンドーウエルフェアグループ株式会社 | | |
| 事業所名 | グループホームバンドー大湊 | | |
| 所在地 | 〒035-0075 青森県むつ市真砂町7番1号 | | |
| 自己評価作成日 | 令和 4年 7月 20日 | 評価結果市町村受理日 | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームで暮らしていても、ご自宅のように安心して暮らして頂けるよう取り組んでいます。穏やかな暮らしの中にも、四季を感じたり共に生きる仲間と喜びを分かち合ったり、楽しみや生きがいのある暮らしが続けられるよう、季節に合わせた行事の工夫やお一人お一人のニーズに合わせた生きがい支援を行い「自分らしさ」を大切にされたケアをユニットの目標として、日々取り組んでいます。また研修機会を設け、職員のスキルアップを図り、質のいいケアの提供に努めております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|--|
| 基本情報リンク先 | |
|----------|--|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|---------------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 公益社団法人青森県老人福祉協会 | | |
| 所在地 | 〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階 | | |
| 訪問調査日 | 令和4年8月22日 | | |

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

法人では『介護サービス従事者業務水準の指針』を作成し、職員入社時及び毎年度研修等に活用し、介護職員として大切な指針をサービスの質の向上に結び付けられるように継続的に取り組まれている。コロナ禍にあっても、家族との手紙や電話のやり取り、写真付きの近況報告等、工夫し関係づくりに努力している。また、敷地内を散歩したり、地域住民との窓越しの交流など、感染予防を継続しながら本人らしい生活の質を確保できるように取り組まれている。身体拘束ゼロ対策委員会にて、毎月の目標を掲げ、毎日、職員自ら自分のケアを振り返る取り組みを継続している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I.理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 毎年、地域密着型サービスの意義を踏まえたうえで、ユニットのスタッフ全員で理念を検討し作成している。今年度は「その人のありのままを受け入れ支えます」「お互いを思いやり支え合いながら自分らしさを大切に楽しく暮らします」の2つの目標を掲げ日々のケアの実践に当たっている。 | 年度初めに具体的な理念を掲げ、職員をはじめ入居者、来訪者にも見えるように共有スペース等に掲示し意識を高めている。また、その理念を日常のケアサービスで実践されている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 今年度も新型コロナウイルス感染症予防のため、外部の方との交流は控えていただいている。終息後は、これまで通り町内の活動や地域のお祭り、子供たちとの交流の機会等、積極的に設けたいと考えている。 | これまでグループホームのイベントに地域の方々を招き交流を図るなど、日ごろから地域住民と親睦を深めている。また、近隣に保育園があることから散歩される園児等との交流もみられる。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議を通じて、ご家族や町内会長、民生委員、行政の担当者の方に、認知症介護の取り組みを発信している。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 新型コロナウイルス感染対策のため、職員のみでの開催を継続している。議事録を郵送するかたちで報告を行う他ご意見を頂くようにしサービス向上に活かしている。 | ここ数回の開催は会議議事録での書面開催で実施している。その中で事業所からのサービス状況や運営状況を報告し委員からの意見、質問を受け、必要に応じてサービスに反映している。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | ご家族に代わり申請書類等の代行で、市の担当者ややり取りをしたり、行政担当者が運営推進会議の委員となっており、日々の取り組みや評価報告等を行っている。 | 要介護認定の更新等の申請書類の機会を通じ市役所の担当者との関わりを深めている。また、さまざまな相談等を通じて事業所の実情やサービス内容等を伝え、協力関係を築いている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 職員は、身体拘束の内容やその弊害について理解しており、拘束を行わないケアを提供している。毎年2回内部研修に盛り込み、身体拘束についての理解を深めている。また、身体拘束ゼロ対策委員会を設置し、3ヶ月に1回委員会を開催している。委員会では毎月拘束ゼロに向けた目標を掲げスタッフへの周知を図り、拘束の無いケアの実践に取り組んでいる。玄関については防犯と事故防止の観点から施錠を行っているが、敷地内の散歩などを支援し、閉塞感を感じない環境作り努めている。 | 定期的に行われる委員会や研修会の開催において身体拘束の理解と弊害について認識を深め、身体拘束をしないケアの実践に取り組まれている。また、委員会では毎月目標を立て振り返りを行うなど徹底して理解を深めている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 高齢者虐待防止法について毎年内部研修で理解を深めている。また、虐待の種類を職員が目につく場所に掲示している。日ごろからスタッフ間で、虐待を見逃さない、行わない事を意識し取り組んでいる。また、毎月のカンファレンスでも関わり方について問題がないか確認し合うようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 内部研修で日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を設け理解を深めている。今後も必要な方が活用できるよう対応していく。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居時には、重要事項説明書に基づいてご本人及びご家族に説明し、同意を得ている。契約内容改定時や退居時にも十分説明を行い、必要に応じて退居先の紹介等も行っている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | コロナウイルス感染予防策によりご家族様と職員が関わる機会も減少しておりますが、来所時や電話連絡時に要望等の確認を行うようにしている。意見や要望は、カンファレンスで話し合い、対応を検討している。法人本部より、要望受付に関する文書を送付している。 | 日々の暮らしの中で入居者と会話等でコミュニケーションを図り意思を確認している。また、電話や来所時に家族より情報を頂き、サービス運営に反映させるように取り組んでいる。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 管理者は職員の意見をカンファレンスや日々の業務の中で随時聞く機会を設けている。また、ホーム職員や管理者からの意見・要望等については、法人本部担当者に報告し、代表者に伝え、意見を反映できるようにしている。 | 日々の業務の中でコミュニケーションを深め、意見が出やすい環境づくりに取り組まれている。また、提案や要望については管理者から法人担当者を通じて代表者へ伝えられ、業務改善の機会に繋がっている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員の勤務状況を把握している。キャリアパス制度の導入や介護職員の処遇改善を行って、職員に向上心を持たせるようにしている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 毎月内部研修を行っている。外部研修は開催時に職員に掲示し、周知を図っている。今後も法人内外の研修の機会の確保に努めていく。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 感染予防のため対面での外部研修への参加は控えている。リモートでの研修に参加している。コロナ収束後は積極的に同業者との交流を図りサービスの質向上に努めたい。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 事前に面談を行い、不安の軽減や要望等確認している。利用開始後も要望等に耳を傾け、早期の信頼関係構築に努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 事前訪問の際、ご家族からも話を聞き希望や意向を聞き出し、不安が解消できるように努めている。また、契約に至った場合は改めてお話を伺い、ニーズをより深く理解できるようにしている。また、入居後しばらくの間は、ご家族様と電話を中心にこまめに連絡を取り、思いの理解に努めるとともに信頼関係構築を図っている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ご本人の状態や希望、ご家族の要望を踏まえ、必要なサービスを見極め対応できるか検討している。また、状況に合わせ他のサービスの利用も勧めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 食事の準備や掃除、洗濯、畑作業などで、入居者様と一緒に日々の生活を楽しんだり、一緒に考えたり、また、職員が入居者様に支えられたりと、お互いに必要である大切な存在だという関係を築いていけるよう努めている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 面会時や電話、お便りで生活の様子や、ご本人の思いなどを伝えるようにしている。ご家族様の思いにも耳を傾けながら、ご本人にとってより良い暮らしについて相談し、できる範囲で協力していただき、ともに支えあう環境づくりに努めている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 感染予防対策を講じながらも馴染みの人との関係が途切れないよう支援している。外出は制限中であるが、窓や扉越しの面会支援は積極的に行っている。また、電話や手紙での交流の機会を設けている。 | これまでは馴染みの方々と対面での面会をしていたが、現在は窓越し等で職員が工夫し、感染予防をしながら関係が途切れないように交流の機会をつくり支援を行っている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者様同士の関係を把握し、座席に配慮するなど、孤立せず支えあえるよう支援に努めている。個々の性格にも目を向け、行事の時などには、お一人お一人が楽しく過ごせるよう必要に応じて、スタッフが間に入り見守ったり円滑なコミュニケーションが図れるよう支援している。孤立しがちな方には、さりげなく寄り添いサポートしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | サービス終了後も相談に応じる旨を、ご本人・ご家族へ説明している。また、必要に応じ関連施設や法人のサービス資源の情報提供を行っている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 入居時に、生活歴や暮らし方の希望をご本人やご家族から伺っている。また、日々の会話にて希望や思いを把握し、本人本位に検討している。収集した情報は全職員で共有し、カンファレンスや日々の業務の中で話し合っている。意向把握が困難な方については、日頃の様子を観察しご本人の立場に立って思いの理解に努めている。 | 本人、家族からの意見や要望を確認し、日々の関わりの中から本人の思いを引き出し、理念にある「その人のありのままを受け入れ支えます」を基本としたケアプランとなっている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ご本人やご家族、担当ケアマネージャー、病院等から生活歴や生活環境等の情報の把握に努めている。入居後においても、ご本人やご家族との関わりの中で、情報収集している。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日々の暮らしの中で、入居者様個々の生活リズムや暮らし方、できること、したいことの把握に努める他、定期的なアセスメントを行い、変化を見逃さないよう努めている。また、毎月のカンファレンスでスタッフ全員でそれぞれの方の現状を確認し、状態の把握に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 介護計画には、ご本人やご家族の意見を反映させる他、カンファレンスや日々の業務で話し合った全職員の意見を集約し、個別的・具体的な介護計画作成を心掛けている。また、期間終了時、変化が見られた時と、随時見直しをしている。 | カンファレンスの開催を通して職員間で介護計画について話し合い作成をしている。また、本人の状態変化があった場合は迅速に話し合い、随時見直しを行っている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 計画に沿ったケアの実践と結果の記録をする他、日々の様子も記録し、職員間の情報共有に努めている。計画見直しの際は、個人記録からも情報を収集し活かしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 受診時、ドライバーと職員の二人で行っている。また、身体状況が重度化した場合には、ご家族の希望に応じて、法人内の有料老人ホームへの入居が出来るように支援している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 運営推進会議を利用し、町内会長や民生委員、教育機関に呼びかけを行っている。地域の祭事への参加や、児童訪問、避難訓練等協力いただいている。今年度もコロナウイルス感染予防対策の為行っていないが、終息後は再開する予定である。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居前からのかかりつけ医への受診ができるよう支援している。状況により専門医への受診をご家族と相談し、適切な医療が受けられるよう支援している。 | 馴染みの医療機関の継続や本人の希望に応じて受診の支援を行い適切に医療が受けられるように取り組んでいる。 | |
| 31 | | ○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | ユニット管理者は准看護師資格を保有しており、日常の健康管理を行っている。また、週1回訪問看護師の来所がある為、健康面での相談をし助言を受けている。日常的に連絡、相談ができる体制をとっている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院した時点からご家族、相談員とこまめに連絡を取り、情報の共有、相談に努め、退院後の受け入れに向けて準備している。通院介助時に病院相談員にご挨拶する等、良好な関係作りを努めている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 看取りや重度化した場合の対応に関する指針が整備されている。終末期に入居者様により良く暮らせる為、ご家族と十分相談し、事業所としてできること、できないことを納得して頂き、かかりつけ医と連携し対応している。 | 指針を基に本人の変化に応じて話し合いを行い、本人とご家族が不安にならないよう安心と納得を得られるように常に連携を図っている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 緊急時のマニュアルがあり掲示している。緊急時に備え、年1回勉強会を行い、対応方法について確認している。現在はコロナ禍のため控えているが、平常は2年に1回救命講習を全スタッフが受講している。終息後は再開を予定している。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 昼夜を想定した、火災と水害の訓練を年に4回実施している。入居者にも参加していただきADLの変化について確認し、それぞれの方に適した避難方法を把握している。非常食等災害時用の物品も準備し、また同敷地内にある併設施設との協力体制も整備している。コロナ終息後は、地域の方の参加を働きかけたいと考えている。 | マニュアルを作成し、年4回、火災や水害の訓練を行い、その訓練は事業所だけではなく地域の協力や系列事業所との共同にて避難訓練が行われている。また、発生時に直ぐに持ち出しできるように必要品を備えている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 入居者様一人一人の思いを大切に人格を尊重し、プライバシーを損ねることの無いように、言葉掛けに限らず、排泄・入浴など、各場面において配慮した対応を行っている。また、人権の尊重やプライバシー確保に関する「介護サービス従事者業務水準の指針」を作成しており、年に1回研修を行っている。毎月のカンファレンスでも日々の言葉かけやプライバシー保護ができているか振り返るようにしている。 | 家庭的な生活をめざし丁寧なケアサービスに取り組んでいる。また、理念に掲げている「お互いを思いやり支え合いながら自分らしさを大切に楽しく暮らします」の実践のために一人ひとりの性格を理解した上でプライバシーを大切に個別ケアを実践している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | お一人お一人が気がねせず、スタッフに遠慮せず思いを表出できる雰囲気づくりに日々取り組んでいる。関わる時は、押しつけや決めつけになる言葉がけをしないようにして、希望の表出を支援している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 1日の大まかなスケジュールはあるが、可能な限りご本人の希望に沿い対応している。入浴や食事のタイミング、行事や日々の活動への参加、1日の過ごし方等、ご本人の思いを尊重するようにしている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | お一人お一人の好みの把握に努め、その方が好む身だしなみが整えられるよう配慮している。外出の際も身だしなみを支援している。定期的に理容店の来所がある。髪形の希望を伝えるサポートを行っている。毛染め希望者についてはスタッフが対応している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 入居者様の希望を聞き、栄養バランスを配慮した上でメニューを決めている。好き嫌いに応じ内容を変えたり、調理形態の配慮を行っている。また、季節に合わせ桜餅やおはぎ、バーベキュー、流しそうめんなどを行い、楽しんで頂けるよう工夫している。簡単な調理や盛り付け、片づけも一緒に行っている。 | 本人の個々に出来ることを活かしながら、一緒に食事を楽しむことができる環境づくりに取り組んでいる。また、献立表を作らず家庭的にその日、その季節に合った食材を利用されるなどすべて手作り料理となっている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事、水分摂取量は全員分を記録に残し把握している。食事摂取が少ない方には、補食をすすめたり状況に合わせた柔軟な対応を行っている。水分は1日1500ccを目安に随時すすめている。法人内の栄養士から栄養指導を受け、栄養バランスの助言をもらい参考にし、日々調理を行っている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、義歯の洗浄やうがいを促し、必要に応じ介助にて対応している。また、1日1回義歯洗浄剤を使用し、口腔内の清潔を保つようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている | 個々の排泄状況を記録し、排泄パターンの把握に努め、適した対応を検討し排泄動作の自立支援を行っている。毎月のカンファレンスにてそれぞれの排泄状況について話し合い、排泄動作の自立に向けて検討と実践に努めている。できるだけ下着での生活が送れるよう支援している。 | 個々の習慣や排泄パターンに応じた個別の排泄支援が行われており、オムツに頼らず可能な限り下着を利用し、トイレを使用する自立支援に取り組んでいる。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 軽い運動や食物繊維を多く含んだ食材、乳製品を利用し、自然排便ができるように支援している。便秘が続くようであれば、主治医との相談後、薬での調整をしている。便秘傾向の方には毎朝牛乳の飲用をすすめている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている | 入居者様の入浴習慣や好みの湯温に合わせ、週に2回を目安に入浴を支援している。入浴を好まない方には、時間を置いたり、声かけを工夫し気持ちよく入浴出来るように努めている。体調や状態に合わせ、清拭やシャワー浴の対応も行っている。入浴のご希望があれば、できるだけその日に入浴ができるよう調整し対応している。 | 週2回の入浴支援を基本に入居者のその日の体調や意向に沿った入浴の支援が行われている。また、入居者の希望に応じてその日に入浴ができるように可能な限り対応をしている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 生活習慣の把握に努め、その時の状況に合わせ、声掛け、本人の訴えを傾聴し、休息、安眠できるよう支援している。日々の睡眠状況の把握を行い、必要に応じて主治医に相談している。寝付けない様子があれば、暖かい飲み物をすすめたり、室温やかけ物が丁度いいか等、環境を確認している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬の作用、副作用を把握できるように個人ケースにファイルしており、職員がいつでも確認できるようにしている。薬が変更になった場合には職員全員が周知できるように申し送りし、症状の変化等観察、記録をしている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 日々の会話やご家族からの情報収集により、ご本人の希望、状態に合わせた役割や活動の提供に努め生き生きと暮らせるよう支援している。夏場は、畑作業や草取り、散歩など屋外での活動に力を入れている。手芸や園芸のサポート、調理のサポートなど、それぞれの方のやりたい事の支援に努めている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | コロナ感染予防対策として、外出制限を行っており、外出は通院時のみとなっている。感染のリスクが低い法人敷地内での活動は行っており、散歩や畑作業などの支援を行っている。コロナ終息後はお花見や紅葉狩り、ご家族様との外出や外泊等、積極的に支援したい。 | コロナ禍により、外出を自粛しているため、これまで実施していた日常的な外出支援をはじめ、四季の行事に合わせた支援を控えているが、法人敷地内を散歩するなど気分転換が図られている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 金銭管理は事業所で行い、外出の際は一人ひとりの希望や力に応じ、使えるよう支援している。現在2名の入居者様ご自身でおこづかいの管理を行っている為、ご家族へ紛失等についても説明している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 本人の希望に応じ、電話の取次ぎや手紙を届けている。また、年末には、年賀状作成を活動の一環として行っている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | ワンフロア内に、テーブル席とソファ席を設けている為、配置を工夫し、空間を分けている。ソファはコの字形に設置し、テレビを気がねなく見ることができるようになり、広いホールを活かして空間分けを行っている。季節に合わせた装飾を行う他、毎日の室温や湿度も確認し過ごしやすい環境作りを行っている。 | 家庭らしくリビングにはテーブル席やソファ席があり、落ち着いた雰囲気となっている。また、照明や空調など快適に過ごせるように配慮されている。また、壁は四季の流れを感じられる装飾となっており入居者に潤いを与えている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 共用スペースには、食卓テーブルと椅子を配置した空間と、ソファとテレビを設置した空間とがあり、入居者様同士が思い思いの場所でくつろげるよう配慮している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 馴染みの家具や愛用している物を自由に持参して頂けるよう、ご本人・ご家族に働き掛けている。家具等の配置についても相談し、居心地良く過ごせるよう努めている。 | 家庭において使用していた馴染みの品々を持参してもらえるように呼び掛けており、居室には家族との思い出の写真が置かれるなど、居心地のよい空間となっている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 要所要所に手すりを設置している。またホール内は歩行スペースを広く取り、安全に移動ができるよう家具などの配置をしている。座席や居室には名前をつけわかりやすくしている。浴室やトイレには目印をつけている。 | | |